

第31号
2015年 7月 1日

○発行
650-0004
神戸市中央区中山手通
7丁目25-38
神戸真生塾広報誌編集係
TEL (078) 341-5897
FAX (078) 341-8239
E-mail: kouhou@kbshei-j.org

○振替口座
郵便振替01100-8-18680

神戸真生塾創立百二十五周年の感謝礼拝

晴天に恵まれた五月二十四日(日)、神戸真生塾創立百二十五周年の感謝礼拝とお祝い会、並びに墓参礼拝が行われました。

感謝礼拝では、神戸真生塾の特別顧問であり現在は横須賀キリスト教社会館会長をされている、阿部志郎先生にお話をしていただきました。

阿部先生はマイクの前に立つときになり上着のポケットからおせんべいを取り出されたので、参列していた子どもたちは「今からどんな話が始まるのだろう。」と興味津々でした。阿部先生はおせんべいを二つに割り、「このおせんべいを割ると、大きさの違う二つになります。自分より小さい子どもに、自分の分より大きいおせんべいを与えることができるような人になりますように。他人がしあわせになるように「はんぶんこ」しましょう」と話されました。

また、阿部先生は「自分の手を見てみましょう」と子どもたちに話され、「5本の指は長さがそれぞれ違います。それは、みんなひとりひとり違うということです。手のひらは真生塾であり、ひとりひとり違うみんなを支えているのです」と、言われました。そして、「百二十五



年もの間、神様が神戸真生塾を愛し守ってくださっているのので、創立記念日と言うのは、神様に「ありがとう。」を言う日なのです。」と言われました。阿部先生は、参列した子ども達に優しく話しかけるように話をしてくださったので、子ども達は最後まで阿部先生の話に関心入っていました。

感謝礼拝が終わると、二階ホールでお祝い会を行いました。食前のお祈りと乾杯の後は、神戸真生塾の定番メニューであるカレーをいただきました。豚カツやシーフード、ゆで卵などのトッピングがあったので、子ども達はもちろん、来賓の方達にもおいしく召し上がっていただきました。

お祝い会の途中、神戸真生塾、真生乳児院、自立援助ホーム、きらきら保育園で行われている行事の紹介をスライドショーにて行いました。子ども達の多くは、神戸真生塾で運営している事業所のことを知っているけれど、「どんなところで何をしているのだろう。」と思っていたようなので、みんなスライドショーに興味津々でした。

真生乳児院の行事紹介の時には、会に参加していた子ども自身もスライドショーに映っているのを見て、食事そっちのけで「見て！○○が映ってる！」と嬉しそうに近くの保育者に言っていました。

神戸真生塾での行事紹介では、それぞれの行事紹介について、子ども達にインタビューを行いました。司会者が「○○さんは△△△の行事は楽しかったですか？」などの質問に対し、答えたり子ども達は大勢のお客様の前で緊張していたけれど、堂々と楽しかった行事の思い出について答えることができました。そして、今年三月に高校を卒業して神戸真生塾を退所し、四月から社会人として頑張っている二人にも行事の思い出についてインタビューを行いました。

お祝い会の後、墓参礼拝に行きました。墓参礼拝に初めて行く小学生の男の子は、「墓参って何するの？何があるの？」とソワソワしていました。鶴越墓園に着くと、参列者全員で墓石の周りの掃除を行い、お花を供えました。その後は、富川施設長から神戸真生塾の創設者である矢野毅氏と水谷家、戦争の時に犠牲になった神戸真生塾の子ども達、神戸真生塾の出身者の方々のお墓について説明をしていただきました。そして富川施設長によるお祈りの後、参列者全員で賛美歌を歌いました。



《社会福祉法人 神戸真生塾》 二〇一四年度事業報告

二〇一四年度も、神戸真生塾の子どもたちは日々神様の祝福と導きによって無事過ごすことが出来ました。感謝です。また、地域、学校、関係機関の人々の温かい支援によっても、お陰様で、子どもたち一人ひとりが大きく成長し、新しい年度を迎えることが出来ています。全てに感謝し厚く御礼申し上げます。

また、何よりも、神戸真生塾の7つの事業の中に在って、子どもたちを養育支援下さった職員一人ひとりの働きに対しても敬意を以って深く感謝申し上げます。 私たちの社会では、子育て環境が年毎に悪化していると言われていています。その歯止めとなる施策が数ある中、虐待に苦しむ子どもたちが毎年増加し、子どもの貧困問題が問われています。そして、社会的養護を必要とする児童の数も全国的には増加の一途です。

社会的養護を終えて、18歳で施設を出て、社会へ参加して行きながらも、進路にて大きな障壁に直面し、苦闘している施設出身者がいます。アフターケア

の重要性は自立援助ホームの事業経験からも見えて来るものがあります。

まだまだ、社会的な大きな問題と課題がわれわれの中に存在しているに違いないのですが、良く見えていないのが大きな問題です。

社会的要保護児童の養育形態を改革する、国の大きな施策「家庭的養護推進計画」が今年度よりスタートいたしました。15年間に亘る長期の改革となります。一年でも早く計画通りの成果が上げられるように進めながらも、慎重に取り組んで参りたいと考えています。皆様の変わらぬご理解とご協力をお願い致します。

(富川 和彦)



社会福祉法人全体 事業活動計算書 (自)平成26年 4月 1日(至)平成27年 3月31日 第2号の1様式

Table with 4 columns: 勘定科目, 当年度決算(A), 前年度決算(B), 増減(A)-(B). Rows include 児童福祉事業収益, 人件費, 事業費, 施設維持費, etc.

社会福祉法人全体 資金収支計算書 (自)平成26年 4月 1日(至)平成27年 3月31日 第1号の1様式

Table with 5 columns: 勘定科目, 予算(A), 決算(B), 差異(A)-(B), 備考. Rows include 前期繰越事業収入, 前期繰越事業支出, 前期繰越資金収支差額, etc.

社会福祉法人全体 貸借対照表 平成27年 3月31日現在 第3号の1様式

Table with 5 columns: 資産の部, 負債の部, 増減. Rows include 活動資産, 固定資産, 負債, 純資産, etc.

詳しくは、ホームページhttp://kbshinsei-j.orgをご覧ください。

《児童養護 神戸真生塾》
卒園卒業お祝い会

三月二十五日に、卒園・卒業お祝い会を無事終える事が出来ました。今年は幼児四名、小学生二名、中学生五名、高校生二名と十三名の子とも達が、今までお世話になった方々に見守られ、皆、笑顔で晴れ舞台に立つ事が出来ました。

会には、幼稚園、小学校、中学校、高校と沢山の先生方にもご出席して頂きました。また、こども家庭センターや、家庭養護促進協会の方々も来られ、子ども達は、沢山の方々に支えられ成長してきたのだと改めて感じる事が出来ました。



先生方から、子ども達へのお言葉を頂いて、子ども達も照れながらも嬉しそうにしていました。

スライドショーは、主役の子ども達はもちろんの事、会に参加した全員の笑顔が見られる一時となりました。スライドショーを見て、「自分ってあんなに小さかったかな?」「今は、もうこんな事が出来る様になった!」と、自分の成長を感じる事が出来た事と思います。

今年、二名の子とも達がここの神戸真生塾を巣立ち、現在新たな場所での生活を始めております。お祝い会で、施設での思い出や、頑張った事、これから頑張りたい事等、皆の前で立派に言う事が出来ていました。子ども達との別れは、職員としては寂しい気持ちもありますが、立派に成長した姿を見ると安心して送り出す事が出来ました。

ただ、やはり十八歳の子ともが施設を出て自立するという事は、本当に苛酷で大変な事だと感じます。子ども達には、夢や希望を持って社会に旅立って欲しいと感じると共に、社会の厳しさに負けないで欲しいと強く感じました。

現在も、沢山の子とも達が、神戸真生塾で過ごしており、私

たち職員一同毎日子ども達の嬉しかった事や、辛かった事等、沢山の思いを受け止め子どもと向き合う事を大事にしています。共に生活する中で、葛藤する日もあります。子どもの成長を見ることができ、大きな喜びを感じます。私たち職員は、これからも子ども達が健やかに、そして安心して暮らせる様、日々精進しながら頑張っていきたいと思えます。

子どもを始め、私たち職員一同も、多くの方に見守られ助けがあるからこそ、今こうして幸せな日々を暮らせているのだと常に感じております。今後多くの子とも達がここの神戸真生塾を巣立つ中で、自分の過ごした大切な場所となればと強く感じます。



☆お坊さんが歩いているのをお部屋から見えていたK君「あっ、お地藏さんがいた!」あれはお坊さんだよ、と教えると「そうや、お坊さんてチーンで鳴らしたらお願いごと叶えてくれるねんて」お坊さんとお地藏さん、ごちゃごちゃになっちゃったね。

子どものつぎやま

歌えなかったY君「昨日こけてケガしたから力が出なかったわ」治ったらいい声聴かせてね。

☆「お姉ちゃん、今日の野球阪神VSヨーグルトやで」それはヤクルトだね。

☆靴下に穴が開いているので捨ててねと言われたA君「長い間お世話になりました、さようなら、アーメン」と言って捨てていました。

☆二人組みのアイドルでどちらが好きか話をしていて意見が分かれた時に一言「お姉ちゃん」とずっと一緒に住んでるのに全然気合わへんな

☆「お外に遊びに行こう」とお姉さんに言われ「あと五分だけ待ってね」と言われたK君、「一、二、三、四、五!五分待ったよ」それは五分じゃなくて五秒だよ。

☆動物園でカワウソを見て一言「なんでカワウソって言うんやろ?川でウソつくからかな?」



《乳児院 真生乳児院》

子どもたちに寄り添って

真生乳児院施設長
愛こどもクリニック院長

数田紀久子



「子どもは大人を小型化したものではない。(『The child is not a little man.』)と、よく言われます。

ます。

子どもは毎日少しずつ大きくなっていきますし、体の中身も常に変化しています。乳幼児が、大人と違って繰り返し熱を出し、感染症にかかる事からもわかるように、体力や免疫力(病気になるにくさ)ができるのは長い時間がかかりますし、子どもに必要な食事の取り方、水分の取り方、眠り方も大人とは全く違います。これから生きていくのに必要な力、すなわち理解力(ダメな事やルールがわかる)、忍耐力(待つことができる)、我慢(できる)、表現力(思いを伝える事)なども、子どもは成長とともに獲得していきます。

真生乳児院の子ども達が健やかに育っていくために、私達は子どもたちに寄り添いながら成長を見守っていききたいと思っ

この大切な時期の子育ては、一般の家庭でも難しい場面がよ

「夜遅くまで眠りません」「朝、なかなか起きません」「父親の帰宅が遅いので、その時間に起きてしまします」「テレビをつけていると静かにしていませんが、テレビがないとぐずります」など、乳幼児の日常生活のもとである①食べる②寝る③遊ぶが十分にできなかったり、規則正しい生活ができなくて悩まれる場合があります。

私達は乳児院で働いていますが、養育の専門家である保育士、臨床心理士、家庭支援専門相談員、栄養士、調理師、看護師が互いに協力しあいながら、家庭での子育てのモデルになるような養育を常に心がけて行かなければなりません。私達は、各々の分野で子どもたちに寄り

添い、子どもが子どもらしい生活を送り、優しい心、強い体を得られるように、そして事故の守っていきましょう。



バーベキューしたよ



きょうだいの絆

すみれグループより

現在、すみれグループ(ひまわりクラス・ひよこクラス)には、1歳から3歳までの計7名が生活を共にしています。全児きょうだい組で、例年になくきょうだい三組のみのクラス編成となりました。

きょうだいは同室、若しくは同じグループで過ごすことが大前提です。きょうだいが離ればなれになることなく、家庭的な生活の中で自然にその絆を深められることを大切にしています。

そのため、すみれグループでは、上の子が下の子を思いやる心が自然に深まり、きょうだいが困っていると真っ先に駆けつけ、自分のきょうだいを手助けしたり守ったりする姿が多くみられています。

また、今夏はきょうだいのみで淡路島でのお泊り保育も計画中です。

これからも、更にきょうだいの絆を深めていけるよう、子どもたちの生活を支えていきたいと思っ

(主任 福永)

平成26年度行事報告

- 四月 お花見
- 五月 こどもの日
いちご狩り
- 六月 合同遠足
(市乳児連盟)
- 七月 七夕
プール遊び
デイキャンプ
- 八月 納涼大会
デイキャンプ
琵琶湖キャンプ
- 九月 合同運動会
(市乳児連盟)
- 十月 ぶどう狩り
院内運動会
- 十一月 人形劇合同交歓会
(市乳児連盟)
- 十二月 七五三
収穫感謝祭
- 一月 クリスマス祝会
お餅つき
- 二月 お正月
節分
- 三月 ひなまつり
- 毎月 お泊り保育
- ・お誕生日会 お喰い初め



《保育所 真生きらきら保育園》

保育園から平和を考える

園長 上杉 徹

当園では日常の保育や食育を通して、いのちについて子どもたちと考えています。生き物や植栽のお世話をすること、食物を「いただく」ことについて折に触れて一緒に考えてきました。お友だちや保育者との関わりの中で、自身の思いが通らず、手が出てしまったり、泣いてしまったりする場面があります。その事を通して、一人では生きていけないこと、お互いの身体を傷つけないことなどを学んで行きます。保育園は社会性を身に付ける場でもあり、周りの環境に生き、生かされていることに気付いていく場でもあります。周りの環境とは子ども自身の周りに存在するお花や生き物など自然環境全てであり、玩具、お友だち、保育者と子ども自身の心と身体の状態も含んだ全てです。その中で、神さまに見守られていられることも気付きながら、感謝する心を育て、お互いが豊かになることを願っています。

年間の聖句は『平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。』とされています。今年「平和」という言葉がキーワードとなりまします。年間を通して子どもたちの生活の中から平和が生まれ出せることを考えて行きます。子どもたちの育ちに負けないように我々も成長していけると願います。



《6月の園だよりより》

さくらんぼ・ももぐみ

(0・1歳児)

窓から吹き込む風が心地よい季節となりました。入園・進級から2カ月が過ぎ、ももぐみ・さくらんぼぐみの子どもたちは新しい環境にすっかり慣れ、毎日元気いっぱいにお過ごしすることができています。

ももぐみの子どもたちは最近、生活の中でたくさんの「頑張りを」を見せてくれるようになっていきます。例えばお昼ご飯のとき、好きなおかずはすぐに食べることができても、苦手なおかずはどうしても最後まで残りがちなのですが、保育士が「今日のデザートは○○だよ！」と声をかけたり、「お皿をピカピカにしていっばいおかわりしようね！」と励ましたりすると、子どもたちは意を決した表情で苦手なおかずを「パクッ」と食べるようになってきています。そして、そんな「頑張り」の後に食べるおかわりや、デザートを夢中になってはおぼる子どもたち。その幸せそうな表情を見て

私たちもほっこりと幸せな気持ちになっていきます。また、ももぐみさんはあそびの中で、お友だちとの関わりを少しずつ楽しめるようになっていきます。おもちゃを取り合って「いや！」と怒ってしまうこともあります。保育士が間に入って「どうぞしてあげてね。」と声をかけると、あそんでいたおもちゃをお友だちに渡してあげることもできるようになっていきます。お友だちと顔を見合わせて楽しそうに笑っていたり、泣いているお友だちの顔をのぞきこんで、頭をナデナデしてあげたり、お友だちとの関わりの中で、色々な表情を見せている子どもたちです。これからも様々な経験を通じて、子どもたちがお友だちのことをもっと、もっと好きになっていくように働きかけていきたいです。

屋の中をあちこち探検することが増えてきました。時には、本棚の本を全部引っぱり出したり、おもちゃ箱の中に座り込んでいたり...と、大胆なあそびを楽しみことも！また、保育士やももぐみさんのしていることを真似することも多くなってきています。毎日の礼拝のときには一緒に手を「ギョッ」と組んでみたり、讃美歌に合わせてお口をパクパクと動かしたりする様子が見られるようになっていきました。体操のときも立ち上がって体をゆらしたり、腕を上下に懸命に動かしていたり...と、何事にも興味津々でもとても活発なさくらんぼぐみさんです。これからはますますのびのびと大きくなっていくように、一緒にたくさんの楽しい時間を作っていきたくと思います。

0・1歳児クラス担任

廣井 恵
請川まり子
藤津 綾萌



新任職員紹介

乳児院



崩田 夏穂

〔趣味〕 バレーボール

〔抱負〕 子どもの思いを受け止め多くの愛情を与える中で、職員の方々と子どもの小さな成長も共に喜び合い、笑顔の絶えない日々を過ごしていきたいと思っています。

保育所



山中 和子

〔趣味〕 観葉植物を育てること

〔特技〕 水泳
〔抱負〕 今までの経験を活かしながら、目の前の子どもたちと真剣に向き合っていきたいと思っています。小さな些細な出来事を喜び、笑顔で受け止められるよう励んでいきます。



藤津 綾萌

〔趣味〕 映画鑑賞

〔特技〕 スポーツ

〔抱負〕 毎日、笑顔をやさげに子どもたちに負けないくらい元気いっぱい頑張っていきたいと思っています。これからどうぞよろしくお願い致します。



青木 梨花

〔趣味〕 舞台鑑賞

〔特技〕 ドラム

〔抱負〕 まだ慣れないこともありますが、スムーズに保育ができるよう頑張っていきたいです。そして、笑顔忘れずにしたいです。よろしくお願い致します。



岡本 拓馬

〔趣味〕 音楽鑑賞・釣り

〔特技〕 ギター

〔抱負〕 今はまだ、先輩方や子どもたちに教えて貰うことばかりで、迷惑をかけています。早く仕事を覚え、地域の子育て支援の力になれるよう、日々努力していききたいと思っています。



大塚 知香

〔趣味〕 お菓子作り

〔特技〕 ピアノ、バレーボール

〔抱負〕 子どもたちがたくさん「おいしい」と言ってくれて、たくさんの笑顔を見せてくれるような料理やおやつをたくさん作ることが出来るようにがんばっていききたいと思っています。

児童養護施設



山本 惇矢

〔趣味〕 料理

〔特技〕 図画工作

〔抱負〕 子ども達が安心して楽しい日々を過ごす事の出来る環境作りをしていきたいです。また、子ども達と共に日々成長し毎日楽しく過ごしていきたいと考えています。



北浦 貴子

〔趣味〕 写真を撮ること

〔特技〕 文字を綺麗に書くこと

〔抱負〕 四月より児童養護施設に配属となりました。小さい頃からの夢を実現することが出来ました。自分らしく子どもたちと向き合っていけたらと思います。



越智 七美穂

〔趣味〕 映画鑑賞

〔特技〕 バレーボール

〔抱負〕 子ども達とたくさん時間を共にし、日々の生活を大切にしながら、頼られるお姉さんとなれるよう、先輩職員の方々からのご指導の下頑張りたいです。



菊地 なつき

〔趣味〕 旅行

〔特技〕 バドミントン

〔抱負〕 子どもたちに栄養バランスの整ったおいしい食事を作りたいと思っています。まだまだわからないこともたくさんありますが、一生懸命頑張るのでよろしく願います。



昨年度児童行事報告

- 四月 春の子ども会 (十一月も・関西学院 高等部・神戸女学院高等部)
- 五月 小学生ハイキング・幼レク (市養連 真陽フェスティバル (地区自治会 当法人創立記念日お祝い会))
- 六月 卓球大会 (東養協・市養連) Jリーグ観戦 (ウィッセル)
- 七月 近畿スポーツ大会神戸予選 (市養連) 子ども会クリン作戦 (元町商店街 夜市招待)
- 八月 琵琶湖キャンプ (神戸教会) 小学生教会キャンプ (市養連) 当法人・納涼大会 (神戸市 海釣り招待)
- 九月 Jリーグ観戦 (ウィッセル) 女子バレーボール大会 (市養連) Jリーグ観戦
- 十月 神戸生田中学校体育会 清風幼稚園・山の手小学校運動会
- 十一月 フットサル大会 (市養連) 七五三詣り (生田神社) オレンジリボンキャンペーン (兵庫県子ども支援家庭センター協議会 アイスケート (神戸ポータルイオンズクラブ)
- 十二月 お餅つき招待 (神戸サウナ 電飾バス乗塾 (市交通局労組) 教会クリスマス (神戸教会) クリスマス礼拝・祝会 (神戸教会) クリスマス昼食招待 (神戸プロテスタント) 沖縄招待旅行 (KOBRE三宮ひと街創り協議会) カナデア交流会 (カナデアアカデミースクール) グリーンアップフットサル大会 (市養連) 定期演奏会 (兵庫県管奏楽団) キツザニア招待 (西宮キツザニア) スキー大会 (市児童養護施設連盟) キャンプ招待 (セントラルレオクラブ) 当法人・卒業生園お祝い会

ありがとうございました

寄付並びに児童招待ご芳名

敬称略・五十音順
(二〇一四年四月一日〜二〇一五年三月三十一日)

寄付金

- 有馬和男
- 安西眞由美
- 石井幼稚園
- 稲垣宣子
- 岩村良子
- 上杉徹
- 上西幸之助
- 大江慎一
- 岡田長保
- 大社貴子
- 小沢医院
- 小野勝江
- 小幡信子
- 數田紀久子
- 勝木光江
- 加藤史子
- 家庭養護促進協会
- カフェ・リースヒェン
- カワタリ電設(株)
- 川西報公会
- 関西学院高等部
- 関西学院
- 宗教活動委員会
- 関東学院 中・高部
- 倉石哲也

- 神戸教員合唱団
- 神戸教会
- 神戸教会附属
- いずみ幼稚園
- 神戸教会教会学校
- 神戸市乳児院連盟
- 神戸松蔭
- 女子学院大学
- 神戸昇天教会
- 神戸女学院
- 神戸女学院中高部
- 神戸女子大学
- 神戸女子短期大学
- 神戸市立清風幼稚園
- 神戸真生塾
- 児童養護施設
- 職員有志
- 真生乳児院職員一同
- 真生きらきら保育園
- 職員一同
- 子供の家職員一同
- 神戸聖愛教会
- 神戸多聞教会
- 神戸ポートワイズ
- メンズクラブ
- 後藤幸子

- 齊藤仁美
- 齊藤稔
- 捜真女学校 中・高
- 清水美香
- 松蔭高等学校
- 松蔭女子学院
- 松蔭短期大学宗教部
- 頌栄幼稚園
- 白坂精子
- 菅根信彦
- 住元義則・淳子
- 第一生命(株)
- 玉川聖学院
- 民谷清
- 東洋英和女学院 中・高部
- 富井啓介
- 富川和彦
- 富川直彦
- 鳥京
- 中村悦子
- 中村淳子
- 名古屋学院
- 西宮中央教会
- 日本聾話学校
- 梅光学院 中・高部
- 濱田栄二・理恵
- 濱本ちぐさ
- 林りえ
- 東大阪福祉施設会
- ピースロット(有)
- 人見明美
- 廣畑康雄
- 福島弘子
- 藤井祥子
- 藤井秀彦

寄付物品

- 平安徳義会乳児院
- 細見英信
- 本城智子
- 本田伊佐美
- 舞金館
- 村井美穂子
- 安場英子
- 山梨立正光生園
- 李福美
- 若林孝典
- 綿谷榮子
- 渡邊智明
- NPO法人
- ピーアンドファーム
- 内田三枝
- 大阪ガス
- 大社貴子
- 英和企画(有)
- 門脇明彦
- 共進舎労働組合
- 協同食品(株)
- グッドウエイ(株)
- 神戸教会
- 神戸市社会福祉協議会
- 神戸昇天教会
- 神戸市立清風幼稚園
- 神戸親和女子大学
- 神戸スイーツポート
- 神戸ポートワイズ
- メンズクラブ
- 神戸屋精肉店
- 澤野美智子
- 島田千里

児童招待行事等

- 神果神戸青果(株)
- すみれ建築工房
- 全国シヤンメリー
- 協同組合
- ティー・ビー企画
- 電通(株)
- チュチュアンナ
- 富川和彦
- 豊崎
- 中尾久吉商店
- 日本鏡餅組合
- 日本ベビーフード
- 協議会
- 原商店
- 兵庫県アミューズメン
- ト施設業者協会
- ワールドコスト(株)
- マーカー神戸(株)
- 丸井
- 南商店
- みの屋
- 三宅(株)
- 明治ホールディングス(株)
- メイク・ア・ウィッシン
- オブ・ジャパン
- 柳田薫
- ワールドメイト
- P&G
- USJ
- 朝日放送
- アスリートグリーン
- 兵庫(株)

- 井岡ボクシングジム
- うるこの館
- 生田神社
- ヴィッセル神戸
- 大阪YMCA
- 大阪ガスグループ
- 小さな灯運動
- カネディアン
- アカデミースクール
- 木下大サーカス
- 神戸公演事務局
- 熊野神社
- 公益財団法人
- オリックス財団
- 神戸カップ友の会
- 劇団カップ座
- 神戸教会
- 神戸サウナ&スパ
- 神戸市交通局
- 神戸市生活指導
- 研究会
- 神戸市児童養護施設連盟
- 神戸新聞社
- 神戸元町商店街連合会
- 神戸六甲ポート
- ライオンズクラブ
- サンテレビ
- 新日本製薬
- 社会福祉法人
- 上野丘さつき会
- 真正ボクシングジム
- 新日企画
- 真陽ふれあい
- まちづくり協議会
- 全日本
- サーフキャスティング
- 連盟兵庫協会
- 田中芳子
- どんぐりリコール
- ミュージカルスクール
- 日産労連
- NPOセンター
- 「ゆうらいふ21」
- 日本プロサッカー
- 春・秋こども会
- 神戸女学院高等学部
- 関西学院高等部
- 毎日新聞厚生文化事業団
- 三井住友海上
- 火災保険(株)
- みなと銀行
- みらいプロジェクト
- 実行委員会
- レオクラブ
- KOBE三宮
- ひと街創り協議会
- NPO法人生涯学習
- サポート兵庫
- 和陶庵・井上和美
- 伊藤様 他
- 散髪ボランティア
- 子どもたちにダンス指導して下さった皆様
- (ヒップホップ)
- 以上

神戸真生塾苦情処理委員

苦情受付担当者 久山 啓 (子ども家庭支援センター
ロータリー子どもの家センター長)
森本 みずき (真生きらきら保育園 主任保育士)
網谷 仁志 (神戸市立自立援助ホーム子供の家
主任指導員)

苦情解決責任者 富川 和彦 (児童養護施設 神戸真生塾 施設長)
数田 紀久子(乳児院 真生乳児院 施設長)
上杉 徹 (保育所 真生きらきら保育園 園長)
竹原 裕昭 (神戸市立自立援助ホーム子供の家
施設長)

第三者委員 森光 規之 (当法人 監事)
中村 悦子 (主任児童委員
中央区山手地区民生委員児童委員)

苦情受付件数 平成27年3月より平成27年6月未まで4件

子育てホットライン(相談専用)

TEL:078-341-6493

年中無休午前9時~午後6時

(緊急の場合は夜間も可)

神戸真生塾 子ども家庭支援センター

(ロータリー子どもの家)



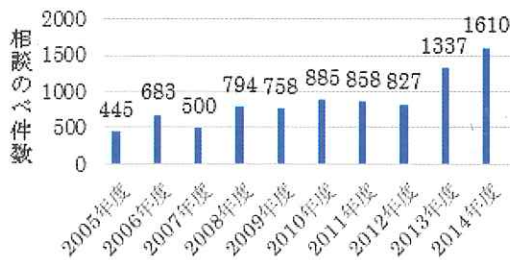
子育てに困ったら
先ず電話相談!

Homepage <http://www.rotary-kodomoie.org/>

facebook [http://www.facebook.com/](http://www.facebook.com/rotary.kodomoie)

rotary.kodomoie

相談件数の推移



二〇一四年度実績報告
センター長 久山 啓

ロータリー子どもの家は阪神・淡路大震災の復興支援の義援金によって設立され、その役割を終えた後も地域の子育て支援の拠点として活動してきました。ロータリー子どもの家としては今年二〇周年、児童家庭支援センターの認可を受けて一〇周年という節目の年を迎えています。

子ども家庭支援センター ロータリー子どもの家

子育ての相談については上の表のように近年著しく増加し、二〇一四年度は一六一〇件のにのぼりました。

件数の増加だけでなく内容も複雑、多様化しており、子ども家庭センターや区役所、保育所や学校など様々な機関と連携することも増えております。

また、相談業務以外にも野外活動や子育てホットとひろば、子育て講座など様々なプログラムも展開しており、相談以外の利用者のはべ八八九三人でした。当センターのすべての利用者は延べ一〇五〇三人となり、二年連続一万人を超えています。これからも利用者や社会のニーズを捉えながら柔軟に専門性の高い事業を展開していきたいと思っております。



編集後記

梅雨真っ只中ですが、時折り現れる太陽の下、子ども達は元気に走り回っています。

皆様方の温かいご支援のもと、広報誌「愛」三十一号を発行することが出来ましたこと、心から感謝いたします。

今年この広報誌「愛」は創刊十周年を迎えます。十年前、手探りで始まったこの広報誌作りですが、読んで下さった方々から「今回の記事、面白かったよ」「〇〇の記事、感動したよ」といった感想が寄せられることが編集している私たちの大きな原動力となり、より多くの方に親しみやすく楽しんでいただける内容の紙面作りに励んで参りました。

十周年の今年は今までよりさらに内容を充実させ、神戸真生塾がより皆様に身近に感じられるような広報誌にしていきたいと思っております。また十周年記念号の発行も計画中ですぜひお楽しみに。



(金岡 美衣)